

# 実践活動事例集

## ◆富山市新川地区ブロック

大 沢 野  
大 久 保  
船 嶺  
下夕・小羽  
大 山  
上 滝  
大 庄  
福 沢  
細 入



## 「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック  
大沢野地区民生委員児童委員協議会  
片沢 充

### 事例事項

重点1 地域のつながり、地域の力を高める

### <ポイント>

住民が課題を抱え、孤立してしまうことを防ぐ「予防の視点」の取り組みを重視していく

### 事例テーマ

日頃の活動とあわせ、他の組織・団体との交流・連携を図ることにより、民生委員・児童委員としてのレベルアップをめざす。

#### (1) 現状 <概要>

民生委員・児童委員としての活動のベースは同じでも、考え方や具体的な活動内容に多少の違いがあるように感じています。地区定例会において、具体例の報告や意見交換をおこなうことで、統一性をもたせるよう心掛けていますが、あわせて、他の組織・団体との交流・連携にも重点を置いています。立場の異なる方々の活動内容や意見を聞いたりすることにより、我々も幅広く学んでいくことも必要であると思います。

#### (2) 今、取り組んでいること

3つの組織・団体との連携について紹介します。

##### ①地域包括支援センターとの連携

4年前から、毎月の地区会に地域包括支援センターの職員1名に参加してもらっています。そして、日々の活動における相談事や疑問点に、その場で答えてもらって、解決を図るようにしています。逆に、地域包括支援センター主催の行事・研修会等にも参加するようにしています。写真は、5月24日(火)に開催された第1回生活支援体制整備地域連絡会議のもので、13名が参加しました。これらのことを通して、いつでも、すぐに相談できる関係を築くことが大切だと考えています。



##### ②社会福祉協議会との連携

大沢野地区には、北部と南部の2つの社会福祉協議会があります。今回は、大沢野北部社会福祉協議会との連携を紹介します。北部社協主催の活動・行事等はたくさんありますが、我々も社会福祉協議会の一員として、積極的に参加するようにしています。

写真はその内のひとつで、月に2～3回開催されるふれあいサロン「よってかれ」の様子です。

毎回、25～30名のお年寄りが出席され、体操や脳トレなどに取り組んでおられます。我々も、毎回2～3名が参加し、一緒に取り組んだり、おしゃべりをしたりして、親睦を図っています。時には、社協会長の要請で、我々が話をすることもあります。良い経験だと思って取り組んでいます。



### ③大沢野身体障害者協会との連携

ご存じのように、我々は平成30年4月から地域相談員として、障害を理由とする差別の相談にのる役割も担っております。

大沢野地区民児協では以前より、年1回ではありますが、大沢野身体障害者協会の行事に参加しています。写真は、6月11日(土)の氷見あいやまガーデン見学のものです。車いす利用者の介助のため、6名がボランティアとして参加しました。

一緒にバラ園を見学したり、道の駅や水産会社での買い物をしたりして、障害者との交流を図りました。



### (3) 今後、取り組んでいくこと

- ・日頃の活動をより充実させ、各種団体との交流・連携さらに深める。
- ・住民が課題を抱えて孤立することの無いよう委員活動を強化する。
- ・民生委員・児童委員のレベルアップをめざす。

### (4) 連携する機関

自治会(地域住民)・地域包括支援センター・社会福祉協議会・各種団体

### (5) 実施時期等(進め方・手順等・今後の取り組み課題等)

#### <効果と課題>

他の組織・団体との交流・連携は、我々自身の知識を深めたり、幅広い視点や考え方を身につけるためにも重要であると思います。そして、日々の活動に良い影響をもたらし、成果につながっていくことを期待しています。

課題として、自治会・町内会との連携がもっと必要であると感じています。このことは、特に今回の改選の手順を進めていく中で、痛切に感じました。民生委員・児童委員の役割を知ってもらうとともに、町内会・自治会の役員とは違う、ということを理解してもらう必要があると感じました。

### (6) 事例報告に必要な図及び写真等の添付

随時掲載

(様式2)

### 活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

課題を抱えた住民が、孤立してしまうことを防ぐ「予防の視点」の取り組みを強化する為に、日頃見守り活動とあわせ、各種の組織・団体との交流・連携しながらの活動が重要になる。

(2) 地区民協として課題への取り組み方

地域での要支援者の見守り活動に欠かせない、各種団体や機関との協働の強化をどう図るかが課題です。

①地域包括支援センターとの連携

②社会福祉協議会との連携

③大沢野身体障害者協会との連携

上記団体との交流に取り組みました。

(3) 今後も取り組んでいく目標

行ってきた他団体との交流を手がかりに、より幅広く交流の輪を広げる必要があると考えています、また他の民児協とも情報交換会や勉強会をして行きたいと思います。

(4) 連携する機関（重要度順）

・各種関連団体・行政・他地区民生委員児童委員協議会・自治振興会（町内会）

(5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

(6) 活動強化方策の策定に必要な図及び写真等の添付

なし

### 《大沢野地区民生児童委員『活動強化方策・地域版2022-2025』》

#### 重点1 地域のつながり、地域の力を高める

課題を抱えた住民の、孤立防止「予防の視点」での取り組みを重視していく。

- ・地域にある社会資産の各種団体や個人との連携の強化に努める。
- ・他地域の民児協との交流を活発にして委員の育成強化を計る。

## 「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック  
大久保地区民生委員児童委員協議会

### 事例事項

重点2 さまざまな課題を抱えた人びとをささえる

#### <ポイント>

これまで以上に地域住民とのネットワークを構築し、地域の「気になる人」を早期に見出し適切な支援につなげる。

同時に、既存の支援制度だけでは解決困難な課題も少なくないことから、地域の特性をも活かした新たな支援・サービス想像への提言・提案等を進めていく。

#### <事例テーマ>

社会福祉協議会との一層の連携と協働活動の強化

##### (1) 現状 <概要> <きっかけづくり>

大久保地区社会福祉協議会の役員に、民生委員・児童委員協議会より3名加わっている。社会福祉に関する活動として、地域の高齢者のひきこもりや認知症の防止、お互いのふれあいを目的に「ひまわりクラブ」を設立して、さまざまな催しを行っている。

##### (2) 今、取り組んでいる事 <具体的活動>

- ・大道芸、チンドン屋によるパフォーマンス、ペタンク・釣りゲーム等の夏祭り
- ・三世代交流でのペタンク大会
- ・「認知症を予防し、健康寿命を延ばそう」という講演の実施
- ・消費生活センターからの特殊詐欺防止講座の実施
- ・在宅介護者への配食サービスを年2、3回実施
- ・毎週水曜日にコーヒー教室の開催
- ・月1回の地域食堂の開催

##### (3) 今後、取り組んでいくこと

既存の活動を充実させ、さらに前進させる取り組みをして行く

##### (4) 連携する機関

自治会・社会福祉協議会・各種団体

(5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

＜効果や課題＞

- ・配食サービスでは、弁当が届くことを楽しみにしておられ、感謝されている。
- ・ひまわりクラブのイベントでは、笑顔にあふれ楽しい一日を謳歌している。
- ・ひまわりクラブでの昼食の準備に、福祉委員の方をお願いしているが、クラブの行事に参加できないので、2班に分けて極力参加できるように改善した。
- ・ひまわりクラブにおいて、コロナ禍の為に会食から弁当の配付に変更。
- ・ひまわりクラブに参加する人の送迎が、福祉委員・民生委員児童委員・役員の負担になっている。

(6) 事例報告の写真の添付



## 「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック  
船嶽地区民生児童委員協議会

(様式1)

重点3 民生委員・児童委員制度を守り発展させる  
=地域住民ニーズをかなえる努力を惜しまないこと=

テーマ：民生委員の地域ニーズ把握が、地区社協の設立や地区福祉センターの設置に至るなど、地域住民の福祉の増進に大きな働きを果たす。

### 1. 現状

#### (1) 【処遇検討会の開催】

毎月第1(金)午後に民生委員児童委員6人が主導して、船嶽地区社会福祉協議会長が参加して、地区内での要援護者一人ひとりについて、地区でできることや今後の対応について民生委員と意見を交わしながら処遇検討会を実施しています。この検討会は、平成5年度(約29年前)から行っています。

この検討会での地域ニーズは、船嶽地区社会福祉協議会(平成8年)の設立と地区福祉センター設置への大きな原動力になりました。

#### (2) 【ひとり暮らし高齢者等を対象としたサロン(すこやかクラブ)の開催】

船嶽地区社協と密接に連携し、民生委員がすこやかクラブ対象者の把握を行い、運営、企画、送迎に深く関わり開催しています。このすこやかクラブへは、平成6年(約28年前)から参画しています。

#### (3) 【地区内の心身障害者総合支援施設の苑生や県立富山高等支援学校の生徒との交流】

心身障害者総合支援施設「セーナー苑」へ定期的に訪問し、各種行事に参加しています。また、苑で行われているリサイクル事業を通して、苑生と共に作業するボランティア活動を行っています。

平成25年に開校した富山県立富山高等支援学校を訪問し、運動会・文化祭・入学式・卒業式に参加しています。また、毎年3月に「民生委員児童委員と1年生との交流会」に招かれ、生徒と楽しい時間を過ごしながらか障害者との交流を深めています。

### 2. 今、取り組んでいること

(1) 前述した処遇検討会の他に定例会を月1回開催し、お互いの情報交換を行っています。県民児協や市社協等で行われる研修会に参加した場合は、必ず他の民生委員児童委員へ報告を行っています。

(2) 大沢野地域民児協(連合会)で行っている、ひとり暮らし世帯等への「歳末見舞い品配布」事業に参画し、民生委員として配布先の把握を行い、見守りを行いながら訪問し見舞い品の配達を行っています。



- (3) 船嶽地区社協と連携し、地区で行われている「ふなくら祭り」に参加しています。  
民生委員が作成した綿菓子を無料配布しながら、赤い羽根共同募金の募金活動を行っています。
- (4) 船嶽地区社協で行っている、ひとり暮らし高齢者等を対象とした「身守り安心カード」の新規登録・更新作業を随時民生委員が行っています。

### 3. 今後も、大切にしていって取り組んでいくこと

#### (1) 【他の「単位民児協」との定例連携をすすめること】

特に船嶽地区社協とは、前述のように密接に関わり協働しながら活動しています。

また、市町村合併前の旧大沢野町内にある4つの単位民児協の50人の民生委員児童委員が月1回参集し活動しています。名称を「大沢野地域民生委員児童委員協議会」とし、情報交換を気軽に行える団体として視野を広く保ちながら活動しています。このことは、今後も取り組んでいきたいです。

#### (2) 【船嶽地区がより良い所になるよう「ふなくら活性化協議会」(仮称)ですすめる】

子育て、障害、高齢者だれもが住んで良かった、住んでみたいと思われる暖かい船嶽地区になるよう、自治振興、民生委員、学校・保育、商工会・スポーツ・福祉の地域活動関係者などで、具体的な計画づくりと実践をすすめています。

### 4. 連携する機関 (重要度順)

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| ・船嶽地区社会福祉協議会      | ・ふなくら活性化協議会 (仮称)    |
| ・ふなくら親子の会 (ふなくらす) | ・心身障害者総合支援施設「セーナー苑」 |
| ・富山県立富山高等支援学校     | ・地域包括支援センター         |

### 5. 実施時期等 (進め方・手順等・今後の取り組み課題等)

定例会を月1回必ず開催をすること。ここから、現状の振り返りや、今後のことを話し合いすすめることが大切です。

### 6. 事例報告に必要な図及び写真等の添付

- ①船嶽地区見守りあんしんカード
- ②ふなくら地区社協だより
- ③ふなくら親子の会 (ふなくらす)

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

- ・若い委員のなり手確保が難しい現状にあります。
- ・3年毎の一斉改選で3割～5割の委員が退任、1期2期で退任する委員がその半数を占めます。
- ・新任研修を受け、ある程度活動できる頃には退任という事が多く見られます。

(2) 地区民協として課題への取り組み方

地区民協の機能維持と3期以上活動できる委員が増える環境作り。

① 効果的かつ有意義な定例会とする。

- ・定例会では、市民児協会長会の資料を適格に伝え、共有する。
- ・研修会等の参加者は、定例会で各委員に伝達する。
- ・個々の委員単独では困難な事例は定例会又は会長に相談する。
- ・定例会を欠席した委員へは、後日議事資料を提供する。

② 必要が生じた場合は規約、個人情報取扱、組織の見直しを協議する。

(3) 今後でも取り組んでいく目標

- ① コロナ禍での活動の充実を無理のない範囲で図る。
- ② 新任委員・経験の浅い委員への援助や助言をし、負担感の軽減を目指す。
- ③ 委員同士きめ細かな連携や協働を促進し委員の孤立を防ぐ。

(4) 連携する機関（重要度順）

地区社協・民生委員児童委員・自治振興会（町内会）・各種関連団体

(5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

(6) 活動強化方策の策定に必要な図及び写真等の添付

なし

《船舩地区民生児童委員『活動強化方策・地域版2022－2025』》

重点3 民生委員・児童委員制度を守り、発展させる

テーマ 地域住民ニーズをかなえる努力を惜まず、民生委員・児童委員制度を守り、委員同士が協力し合い次代に引き継いでいける環境作り。

- ・定例会の充実をはかると共に、相談できる雰囲気作りと運営を目指す。
- ・個々の委員の負担感の軽減をはかり、お互いに援助と助言を強化する。

## 「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック  
下タ・小羽地区民生委員児童委員協議会

### 事例事項

重点2 さまざまな課題を抱えた人びとをささえる

### 事例テーマ

一人暮らし高齢者を対象とした水のみ運動の普及啓発

#### 1) 現状 <概要>

当地区民生委員児童委員協議会（以下「民児協」）では、令和3年度ブロック活動強化費を活用して、夏場の熱中症による一人暮らし高齢者の孤独死の防止に資するため、当地区に居住する65歳以上の一人暮らし高齢者36名を対象に水のみ運動の普及啓発を行った。

#### 2) 今、取り組んでいること

##### ア. 水のみ運動の実施依頼

6月の一人暮らし高齢者訪問時に、下記の啓発用チラシ、目盛り（100, 200cc）付きカップ及び赤丸シールを配布した。そして、水のみ運動の必要性を説明するとともに、1日の摂水量を把握するために、配布した目盛り（100, 200cc）付きカップの使用並びに摂水する毎にカレンダーのその日の余白に赤丸シールを貼るようお願いした。



当地区民児協の月例会には、大沢野・細人地域包括支援センターの職員に同席していただいている。

本事業の実施に際し、上記の職員からご助言をいただくとともに、啓発用チラシの作成にあたっては、多大のご協力をいただいた。

## イ. 水のみ運動の実施状況の確認

7月の一人暮らし高齢者訪問時に、その実施状況を32名（訪問時、4名不在）について確認したところ、新たに20名の方が、1日当たりの水分摂取量を確認していた。また、8名の方が以前から水のみ運動を実施していた。

なお、4名の方が水のみ運動を実施していなかった。その理由としては、「若いころから水を飲む習慣がない」のほかに、「10以上摂水すると下痢を起こす」、「夜中に何回もトイレに行きたくないことから摂水を控えている」とのことであった。（次表参照）

表 水のみ運動の実施状況

年代	性別	1日当たりの水分摂取量を確認するようになった		
		はい	いいえ	以前から実施
60歳代	男	2		
	女			
70歳代	男	5		
	女	5	1	2
80歳代	男	2	2	
	女	6	1	6

また、水飲み運動を行って変化があったことや感想などを尋ねたところ、次のとおりであった。

- ・アルコールも摂水になると勘違いしていた。
- ・意識して水分を摂るようになった。
- ・外仕事をしている時と比べ、室内では水分を多く摂ることがない。  
しかし、こまめな摂水を心がけることで水分摂取量は若干増えた。
- ・室温が高くても暑いと感じず、軽度の熱中症になったことがある。（2名）



200cc 摂水する毎に、カレンダーのその日の余白に赤丸シールを貼りつけている。

3) 今後、取り組んでいくこと <対応>

本取り組みを契機に、来年度以降も水のみ運動の普及啓発に継続して取り組んでいくこととしている。

4) 関連する機関

包括支援センター、社会福祉協議会、長寿会

5) 今後の取り組み

熱中症患者のおよそ半数は65歳以上の高齢者が占めている。一人暮らし高齢者の見守り活動の中で、こまめな水分補給に加え、適切なエアコンの使用により暑さを避けること等総合的な熱中症予防対策について啓発していきたい。

6) 事例報告に必要な図及び写真用の添付

本文中に添付

## 「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック  
大山地区民生委員児童委員協議会  
会長 杉田忠則

(様式1)

### 事例事項

重点1 地域のつながり、地域力を高める

重点2 さまざまな課題を抱えた人びとをささえる。

テーマ：ひとり暮らし高齢者の孤立防止に地域住民とのつながりを強化し相互に問題を共有し高齢者が住み慣れた地域で楽しく暮らせるよう問題解決に取り組む。

《地区の社会福祉協議会・小見地区ふるさとづくり推進協議会・食生活改善協議会  
・いきいきサロン等・町内会との関わりの中から》

### (1) 現 状

小見地区社会福祉協議会の主催で「大山地区いきいきクラブ」「食生活改善推進員」「大山地区民生委員児童委員協議会」等が協力し、小見地区センターにおいて各行事を実施した。

- ・その中の一つとして、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯の食生活改善を目標に、バランスの取れた簡単で美味しい食事を提供した。
- ・会食時には、食生活改善推進員が献立の紹介をし、一つひとつの食材の説明や栄養について話をした。普段の食事の中に必ず植物繊維の多いものを入れることや植物油（えごま油など）や青魚など体に優しいものを多くとり、バランスの良い食事を心がけていくことが大事であることを説明した。
- ・軽い運動をすることで日常生活のリズムが固定化し健康に過ごすことが出来ることから、高齢者にも易しくできる運動の紹介を行った。
- ・料理作りに参加した方からは、作る方も勉強になり家庭の料理作りに大変役立っているという声が多く聞かれた。

### (2) 今、取り組んでいること <具体的活動>

#### ① いきいき会食会と弁当配布

- ・小見地区コミュニティセンターで 年4回(小見小学校児童年1回参加)開催する。
- ・参加者呼びかけ用のチラシなどは大山地区社会福祉協議会が作成する。
- ・参加者の把握を各町内会毎に民生児童委員が取りまとめて報告する。
- ・チラシの配布と参加人数の取りまとめ、当日参加者の送迎は民生児童委員が行う。
- ・献立表の材料は食生活改善推進員が行う。

<内 容>

大山地区いきいきクラブ利用申請を提出した、会員の方は年4回の会食会に参加。

- 1 回目は6月 70歳以上又は肢体不自由、在宅ひとり暮らし対象「健康食試食会」  
" (但し、75歳以上全員を対象) "
- 2 回目は9月 75歳以上又は肢体不自由、在宅ひとり暮らし対象「いきいき会食会」
- 3 回目は12月 75歳以上又は肢体不自由、在宅ひとり暮らし対象「いきいき会食会」
- 4 回目は3月 70歳以上又は肢体不自由、在宅ひとり暮らし対象「ふれあいの集い」  
" (但し、75歳以上全員を対象) "

- ・会食の前に地域芸能ボランティア活動の芸を鑑賞し、楽しい時間を過ごす。
- ・年1回小見小学校とのふれあい学童コーラス等を鑑賞し、一緒に食事会をする。
- ・参加する事により人とのふれあいができ、今昔話や近況などを話して楽しく過ごす。
- ・参加出来ない高齢者の家庭へ弁当を届ける。

② 男女合同料理教室

11月料理講師の指導で、高齢者向けの栄養のバランスに配慮した料理作り。  
慣れない手つきでの包丁さばき。楽しく作った後、一緒に食事をする。

③ 各町内会において、いきいきサロンを開催している。

内 容

- ・料理講習会（調理師の指導のもと料理づくりの体験）各地区公民館 調理室
- ・健康講話（保健福祉センター）
- ・介護予防の話（大山包括センター）
- ・軽体操（保健福祉センター）
- ・芸能ボランティア（社協大山支所）映画上映等
- ・終了後参加者全員で茶話会をする



民生児童委員配食作業



配食弁当届け先



会食会



料理教室



異世代交流餅つき大会



男女仲良く料理教室



料理教室



会食会

(4) 連携する機関（重要度順）

- ・町内会・地区の社会福祉協議会・食生活改善協議会
- ・小見地区ふるさとづくり推進協議会・包括支援センター

(5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

ひとり暮らし高齢者の孤立防止を重点に、地域住民とのつながりの強化をめざして、住民が相互に問題を共有し高齢者が住み慣れた地域で世代を超えてのつながりを築き、皆が楽しく暮らせる地域づくりに取り組む。

(6) 事例報告に必要な図及び写真の添付  
随時掲載



## 「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック  
上滝地区民生委員児童委員協議会

### 事例事項

重点1 地域のつながり、地域の力を高める

#### <ポイント>

住民が課題を抱え、孤立してしまうことを防ぐ「予防の視点」からの取組を重視していく。

### 事例テーマ

住民同士が支え合える仕組みづくりへの協力

#### (1) 現 状 <概 要>

上滝地区も少子高齢化が進み、65才以上の高齢化率は、富山市全体での30.5%に対し上滝地区は、40.6%になっています。また、地元のスーパーマーケット等の買い物が出来る場所もなくなり、コロナ禍による行動制限で「いきいきサロン」の参加者が減り、閉じこもり等が心配されるが、把握しにくいのが現状です。

#### (2) 今取り組んでいること <具体的活動>

##### ①「カフェ 和いわい」の開設

民生児童委員協議会・社会福祉協議会・食生活改善推進連絡協議会等が共催となり「カフェ 和いわい」を開設することにしました。当面は、災害時の避難場所でもある上滝小学校の空き教室(小学校の協力により)を利用しながら、依頼があれば各地区のサロンの出張も対応できるように移動カフェを計画し、いろいろな活動の場でティータイムに合わせて健康情報等をお知らせすることとしています。

##### ②ひとり暮らし高齢者への各種弁当の配食

民生児童委員協議会と社会福祉協議会とが共催して、おはぎ弁当・ひな祭り弁当等の望を確認して訪問配食しています。弁当には、上滝小学校児童による簡単な励ましの手紙や保育園児の折り紙が添えられています。この手紙を心待ちにして保管している人もいて、配食する励みになります。

#### (3) 今後、取り組んでいくこと

小学校でのカフェでは、定期的にコーヒー・お茶を飲みながら閉じこもりによる孤立化を防ぐ居場所づくりと、いろいろな活動(紙芝居、脳トレ等)や食生活改善推進員による食生活改善アドバイス、講師による健康アドバイス等を実施したいと思います。

#### (4) 連携する機関

自治会・社会福祉協議会・食生活改善推進連絡協議会・小学校・保育園・包括支援センター等

#### (5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

##### <進め方> 「いきいきサロン」について

- ・コロナの感染状況を見ながらの活動となるが「いきいきサロン」では戸外で行える行事を多くし参加しやすいよう工夫している。
- ・住民同士が体験出来る項目を多くし身体を使ったゲーム、塗り絵、映写会など参加した人に希望も聞いて全員参加型での組織運営をしていく。

##### <課題>

- ・いきいきサロン等で人と交わることの出来る人は心配ないが、閉じこもりの人を外に引っ張り出すのはなかなか難しい。
- ・メンバーの多くが女性であり、同じ人の集まりである。
- ・集合場所までの交通手段が限られている。
- ・一過性になり長く続かない。
- ・高齢者問題、虐待、引きこもり等多様化しており民生委員の成り手がなかなか見つからない。

#### (6) 事例報告の写真

「カフェ 和いわい」での小学生との交流状



大山上野地区サロン 軽体操・ゲーム



新栄町地区サロン 軽体操・ゲーム



三室荒屋地区 干支土人形絵付け状況



(様式2)

## 活動強化方策策定に向けて

### (1) 地域で見えてきた現状と課題

コロナ禍の行動制限の中、地域の高齢化率が40.6%を超えた中で高齢者の健康不安が顕在化してきた。

### (2) 地区民協として課題への取り組み方

民生児童委員協議会・社会福祉協議会・食生活改善推進連絡協議会が協働開催

- ①「カフェ 和いわい」の開設
- ②ひとり暮らし高齢者への各種の弁当の配食
- ③手紙や折り紙等を等しての世代間交流の促進

### (3) 今後、取り組んでいく目標

小学校でのカフェ、定期的なコーヒー・お茶の飲み会を通して、居場所づくりをして行く。(孤立化を防ぐ居場所づくり)

### (4) 連携する機関(重要度順)

- ・自治会・社会福祉協議会・食生活改善推進連絡協議会(各種団体)・小学校
- ・包括支援センター等・自治振興会(町内会)

### (5) 実施時期等(進め方・手順等・今後の取り組み課題等)

- ・閉じこもりがちの人を外に誘い出すのは難しく、課題である。
- ・メンバーの多くが女性であり、男性の参加を促すようにする。
- ・集合場所までの交通手段確保が限られている。

### (6) 活動強化方策の策定に必要な図及び写真等の添付

なし

## 《上滝地区民生児童委員『活動強化方策・地域版2022-2025』》

### 重点1 地域のつながり、地域の力を高める

住民が課題を抱え、孤立してしまうことを防ぐ「予防の視点」からの取組を重視して、住民が皆で支え合える地域を目指す。

- ・積極的に「サロン活動」「お茶会」などの機会を作って行く。
- ・閉じこもりがちの人を外に誘い出す機会を設けると共に、誘い出して行く。
- ・サロン活動等を通して、課題を抱える人の発見と寄り添いを強化する。

## 「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック  
大庄地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

重点2 さまざまな課題を抱えた人びとをささえる

テーマ 地域の各種団体との連携・協働を推進し、全ての地域住民が幸せになることを願って !!

### (1) 現状 (地域の概要)

#### 《大庄地域で気になる方々》

- ◆ひとり暮らし高齢者 ◆ 認知症高齢者 ◆ 生活保護受給世帯 ◆ 貧困家庭
- ◆ 8050問題 ◆ 障がい者 (身体・知的・精神・発達障がい)
- ◆ 虐待 (高齢者・配偶者) ◆ ひとり親世帯 ◆ 児童虐待 ◆ 不登校
- ◆ ヤングケアラー・小学生ケアラー ◆ ひきこもり等々

- ① 課題を抱えた人にとって、とても頼りになる良き相談相手として、日々活動している民生委員・児童委員が多い。
- ② 必要な場合は、関係機関と連携をとって課題解決につなげる委員が多く、地域の皆さんからの民生委員・児童委員への信頼度が高い。
- ③ 民生委員・児童委員としての自覚に個人差がある。
  - ★ 地域共生社会の実現に向けて、切実感を持って現在の自分に出来ることを積極的に推進していくためには、どうあるべきか？
- ④ 人間関係が、やや希薄な町内が少し見受けられる。
  - ★ 地域で様々な課題を抱えている人々を支えようとする意識の高揚を図るための方策は？
- ⑤ 家庭内における人間関係 (特に世代間) が良好でない状態が見受けられる。
  - ★ 家庭内での高齢者の孤立・親子間や夫婦間の不仲等、温かい営みが見えない家庭が複数ある。
- ⑥ 核家族化が進んでいる現在、「赤ちゃんなどの小さな子」と関わる経験が無い状態で、母親になっている若者が多い。
  - ★ 子育ての指導者がそばにいない。
  - ★ 子育て方法が分からない。(未経験・見たことも無い)
  - ★ 育児書等と異なる我が子に不安が増大。(育児ノイローゼ)

※ 育児書等に書かれていることは、「おおよその例である」ことので理解が出来ない為に、育児書と我が子の様子が異なることに不安が募る。

「個々の赤ちゃんや子どもの成長はみんな違っている」ことが分からない。

★ 未知の世界へ突入した「子育て初体験のママ」は、パニック・うつ状態等にな

りやすい。⇒ ⇒ 赤ちゃん・子どもの成長に悪影響が・・・？

- ⑦ 「温かく優しい心・愛情たっぷりに子育てをする事が大切だ」と分かっている、母親自身の心にゆとりが無い場合には、『ゆったり子育て』は難しい。

民生委員・児童委員は、妊産婦を支えることも重要な活動の一つ !!

(2) 今、取り組んでいる事

《車の両輪としての大庄地区社会福祉協議会との連携》

- ① ひとり暮らし高齢者の見守りや話し相手などを通して、安否確認や生活支援活動を行うなどの『ケアネット活動』を推進している。
- ② 高齢者同士の『ふれあいと健康づくり』を目的として、『いきいきサロン』・『貯筋体操』を実施している。
- ③ 一人暮らし高齢者に『弁当』を届ける『ふれあい弁当事業』を通して、大庄校区民児協・大庄地区社協・大庄小学校・大庄地区ボランティア等の皆さんによるネットワークを図っている。(ボランティアと民児協の女性が弁当を作り、大庄小学校児童が『温かい思いやりの心を込めた言葉』と『可愛い絵』を描いた『のし』を付けた『手作り弁当』を、民生委員が安否確認を兼ねて届ける。) 一人暮らし高齢者の皆さんは、首を長くして待っていて下さる。そして、この時、相互に笑顔の花が咲き、会話も弾む。
- ④ 在宅で介護している人たちが集い、日々の介護の悩み等についての情報交換や芸能鑑賞等を通して、日頃の介護疲れを癒し、リフレッシュを図る『在宅介護者の集い』を行っている。
- ⑤ ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯等の日々の見守り・安否確認・緊急時の活用を目的として、『ふれあいカード』と『福祉マップ』を作成し、活用している。なお、『福祉マップ』は、大山消防署・南警察署大山交番・富山市社会福祉協議会大山支所等に届け、活用して頂いている。(毎年、更新ごとに持参している。) 配布先からは、とても喜ばれている。
- ⑥ 『毎月1回の定例会』は、会長会等の伝達だけでなく、『専門講師による研修会』や『情報交換の時間』を設けて、相互に学び合っている。『研修会』には、民児協の大切な片腕として共に活動をしている地域の『福祉推進委員』にも参加を呼びかけ、共に学び、情報の共有を図って、地域福祉活動に生かしている。
- ⑦ 毎日の登下校時の児童見守り活動や放課後児童健全育成(ともえ学級)・大庄子育て支援センターの訪問活動を通して、大庄小学校児童の『見守り』や教育活動のサポート』を実施している。
- ⑧ 『大山保健センター・保健推進員・大庄こども園』等と連携協力をしながら、『子育てママの支援』を行っている。
- ⑨ 主任児童委員が中心となり民生委員・児童委員全員・大庄小学校教職員・大庄地区社協会長・富山市社協大山支所長が一堂に集まり、『大庄小学校児童福祉懇談会』を実施し、学校と地域が連携し合って、大庄小学校児童の健やかな成長に寄与できるよう努めている。

(3) 今後取り組んでいくこと

《重層的地域共生社会の実現をめざして》

- ① 『地域一丸となって取り組む組織体制の構築』を図っていく。  
地域の各種団体相互の連携の更なる強化に努める。
  - ・ 1年交代の町内会長・町内の各種役員（順番制・当番制の中で…。）
  - ・ 1年交代の小学校PTA会長（6年児童の保護者でくじ引きの中でも…。）
- ② 民生委員・児童委員としての学びを深めるために、『各種研修会（施設訪問研修会を含む）への参加』や委員相互の『情報交換会』を積極的に行っていく。
  - ☆ 地域福祉・重層的共生社会の在り方について研修を深め、実践に生かす。
  - ☆ 効果的な子育て支援の在り方を求めて積極的に研修に励み、学んだことを活かして、『子育て支援』（健やかな子どもの育成）を進めていく。
  - ☆ 思いやりの心・優しい心をもって、責任ある活動に取り組む意識の更なる高揚を目指して、地域福祉活動に努めていく。
  - ☆ 『まずは、自分自身・家族（自分にとって大切な人）！！』それから『地域福祉活動！！』⇒⇒ この原則を、大前提として活動を続けていく。
  - ☆ 『張頑り過ぎずに、自分にとって楽しくてやりがいのある『地域福祉活動』・『民生委員・児童委員活動』を推進する。
- ③ いろいろな課題をもった方々への正しい理解を深め、他人事でなく自分の事として、積極的に課題解決に努めていく。その為にも、『専門家等を講師に迎えての研修会』を実施して、学びを深める。
  - ☆ 各課題に対して切実感を持って積極的に向き合っていくために！！  
（民生委員・児童委員としての『実践意欲・学び続ける意欲』の更なる向上を図っていく。）
  - ☆ 課題を持っている当事者への温かいまなざし・優しい関わりは当然のことであるが、「当事者を支えることに全力投球し、心身共に疲弊している家族や近親者へも温かく寄り添い、支援に努めていくために！！」
  - ☆ 他人事ではなく、自分のこととして「少しでもより適切な対応が出来る自分になるために！！」
- ④ 民生委員・児童委員と社会福祉協議会・自治振興会・校区各種団体との連携・協力のもとに、積極的に地域福祉活動を推進していく。



## 「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック  
福沢地区民生委員児童委員協議会

### 事例事項

＜事例テーマ＞ ひとり暮らし高齢者の孤立防止と安否確認活動

#### ＜地域の現状＞

福沢地区は富山市南部の突き当りにあり、過疎化が激しく限界集落を抱えた地域です。すでに住民がいなくなった集落もあり店舗はありません、買い物は一番近くても車で20分かかるスーパーか移動スーパーの「とくし丸」に頼っています。

福沢地区全体での高齢化率は40.2%ですが、谷筋の奥の集落では43%～100%で75歳以上の女性2人だけの集落もあります。

小学校は全校生徒30名で複式学級となっており、統合の対象となっています。

#### ＜福沢地区の民生児童委員活動＞

福沢地区の地域特性から民生児童委員の主な活動は、福沢社協と協力してひとり暮らし高齢者の孤立防止と安否確認です。

##### ① ふれあいカード登録による高齢者の現状把握

65歳以上で同意が得られた一人暮らし高齢者と高齢者世帯を、ふれあいカードに登録し、随時現状維持するとともに年1回の現状確認をしています。

見守り活動の原本となっています。

##### ② ふれあいケアネットによる見守り活動

民生児童委員と高齢者福祉推進員による見守りを実施しています、それぞれの委員の都合に合わせて定期的に見守っています。

##### ③ 弁当の配布

65歳以上のひとり暮らし高齢者に3月と11月の年2回、食事改善グループに依頼して、弁当を作ってもらい配布しています。

お知らせチラシの配布時と弁当配布時に安否確認ができます。

(コロナ禍以降は専門店の弁当を購入し配布)



#### ④ ふれあいの集い開催

65歳以上のひとり暮らし高齢者と高齢者世帯を招いて、お茶と食事の会を開催しています。(コロナ禍以降はマスク等購入し配布)

#### ⑤ いきいきサロンの開催

いきいきサロンの世話人の多くは委員が担っており、安否確認に役立っています。



#### ⑥ ふくさわ祭りの開催

福沢地区住民の連帯と娯楽のため毎年開催しています。歌謡・芸能等・ゲームコーナー・豚汁の提供・児童会のダンスや歌・保育所園児のダンス等、楽しみの場となっています。

また、ひとり暮らし高齢者を招待し楽しんでもらっています、会場まで来られない人には委員が送迎しています。

準備・運営・片付け等は各団体が組織した実行委員会で行っていますが、民生児童委員が主体となっています。

(コロナ禍以降は住民の作品の展示会を開催しています)



#### ⑦ 児童福祉懇談会

主任児童委員が中心になり委員全員と福沢小学校の先生方及び地区社協との情報交換をしています。

(今年は3年ぶりの開催となりました)



### <今後の活動>

今後、ますます高齢化が進行することが予想され、地域の元気が失われて行くことが予想されるが、自治振興会・福沢社協・老人会・各総代・公民館と協力して、高齢者が安心して暮らしていける福沢を目指して活動します。



## 「一隅を照らす」活動事例

富山市新川地区ブロック  
細入地区民生委員児童委員協議会

### 重点1 地域のつながり、地域の力を高める

テーマ 住民同士が互いに支え合うしくみづくりとその推進

#### (1) 現状

旧細入地区は、平成17年の富山市合併以来、旧村外に移り住む若い年代の世帯が増加する傾向にあり、ここ数年は一段と高齢化と過疎化が進む地域となっている。令和3年4月における旧細入地区の人口は1,200人余りで、そのうち65歳以上の高齢人口が占める割合は約44%と、富山市の中でも特に高い地域である。

そのことから、今までの見守り活動や相談活動に加え、社会生活を営む上で必要となる交通手段の確保、近年増えつつある災害への対応、また情報難民、買物難民といわれる状況を改善するための方策等、課題が山積している。

#### (2) これまでに取り組んできた活動

##### (ア) 地域包括支援センターとの連携事業「なごなーる」

地域住民が気軽に集まれる場を作り、会話やレクリエーション、機能訓練指導員による介護予防体操等を通して介護予防の意識を高めるとともに、三世代交流によって伝統文化の継承を図るなど、地域共生社会の実現を目指す事業に協力した。



##### (イ) 「くらしの便利帳」の作成・配布

日常の生活の中のいろいろな場面で役立つ情報を小冊子にまとめた「くらしの便利帳」を民生委員個人が作成し、地区全世帯に無料配布している。

主な内容として、カレンダー、西暦・年号・年齢対照表、国内郵便料金早見表、JR高山線・地鉄バス時刻表、ゴミ収集カレンダー、保養施設が運行する無料バス情報、近隣の医療機関の住所・電話番号、地域で行われている暮らしに関わる様々なサービス（福祉・健康サービス、宅配サービス、移動販売）、各地域の見学マップ等、地域に根ざした生活情報を掲載している。



##### (ウ) 地区社会福祉協議会との連携

近年、夏になると猛暑が続き、家の中に居ても熱中症になる危険性があることから、細入地域福祉ささえあい事業の一環として、見守り、声かけ活動の中で、

独居高齢者にスポーツ飲料（5本）を配布し熱中症予防への啓発を行った。

通常の見守り活動や相談活動に加え、一人一人の健康の状況把握にも努め新型コロナウイルスのワクチン接種に関わる相談、接種状況の確認及び広報活動を行った。

### （3）今後の取り組み及び連携していく機関

#### ① 買物難民増加への対応

令和3年1月末に、猪谷地区で営業していた生鮮食料品等を取り扱う商店が廃業した。地区民生児童委員協議会で、各地域では高齢者だけの世帯が増えており、今後自力で買い物に行くことが困難で、家族や周りの協力も得られない買物難民についての対応が議題となった。

現在、個人商店や大型スーパーの移動販売、生協の宅配、また楡原地区における民生委員個人ボランティアによる商店までの送迎が行われているが、将来を見据えた対策として、富山市社会福祉協議会事業「お買い物バス事業 あいネット号」利用を検討する必要性について話し合った。今後の取り組みとして、民生委員、地区社会福祉協議会、自治連合会が連携し地域住民の買い物についての実態把握、事業利用希望者の有無、付き添い者等について取りまとめることとした。

#### ② きめ細かな見守り、相談活動の推進

一人暮らしの高齢者や地域住民の福祉ニーズを把握し、地域包括支援センター及び地域福祉協議会への公的機関につないでいく上で、担当のケースワーカーやソーシャルワーカーとの情報共有、対応等への共通理解が必要である。このことから、よりきめ細かい見守り活動や相談活動を実現するための定期的な話し合いの場を設け、連携を強化していくことを確認した。

### （4）今後の取り組み課題

近年、日本各地で地震や異常気象による豪雨、土砂崩れなど自然災害が多数発生し、多くの犠牲者がでている。富山でも今年の冬には積雪による交通麻痺や除雪の問題も浮き彫りになった。高齢者世帯が増えている細入地区においても、安心、安全な生活のために、避難場所の確保や避難行動の在り方等について再確認や民生委員の役割について共通理解を図っていくことが課題であると考えられる。